

松任駅南地区をゲートウェイとした SDGs 未来都市： 白山市の賑わい創出事業

団体名●基礎専門ゼミナールⅡ／代表者名●石川美澄（経済学部経営学科・准教授）

はじめに

2015年9月、国連サミットで「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択された。ツーリズムの分野では、1992年にリオデジャネイロで開催された「地球サミット」をきっかけに、マスツーリズム(大量輸送・大量消費型観光)からサステナブルツーリズム(持続可能な観光)への転換が本格化した。現在、SDGsを謳った観光商品(例：SDGs ツアー)が多数登場しているが、それらはサステナブルツーリズムという理念を実現する上での具体的・現実的な商品・サービスだと言えるだろう。

一方で、約30年も前からサステナブルツーリズムの重要性が提唱され続けているにも関わらず、過度な観光利用による自然破壊や渋滞、ゴミ問題等の課題は残されたままである。これらの観光に関連した課題は、新型コロナウイルスの感染拡大によって一時的に「消滅」したものの、今後人びとの移動制限が緩和されるに伴い、再び地域の課題として表出すると考えられる。

活動内容

このような背景を踏まえた上で、本ゼミナール(経営学科2年生21名)で取り組むテーマを「あなたと、あなたの大切な人に贈る観光商品“Gifts from HAKUSAN”の企画・提案」と設定した。ギフトを贈る・受け取ることで、サステナブルツーリズムやSDGsの実現につながるような内容の提案を目指した。

具体的には、7つのグループをつくり、それぞれにターゲットやエリア、メインとなる観光資源等を定め、現地調査を実施した。また、上述のテーマに対してどのような切り口で挑むのかという点については、5つのアプローチ(①映像で贈る“Gifts from HAKUSAN”、②紙、③音、④言葉、⑤その他)から選択することとした。なお、活動時期は2021年9月末から2022年1月末までの約4ヶ月間であり、本活動における観光商品とはいわゆるパッケージツアーに限定しないこととした。

成果、結果の考察

今回の活動結果を表1にまとめた(表1参照)。今年度は、フォトブックの試作はできたものの、その他のパンフレットや冊子づくりという成果物を完成させるまでには至らなかった。

表1：グループの活動概要

班名	上段：活動テーマ／方法 下段：活動内容の説明
1	白山市鶴来町のお土産／現地でのヒアリング・撮影 ターゲットに向けてお土産を紹介するパンフレットのイメージ図を作成。
2	体験で送る白山：観光プランとSDGs／体験・資料収集 川と渓谷のエリアを中心に現状分析を行い、SDGsを考慮した1日の旅行プランを提案。
3	映像で贈る観光商品の企画／GoPro撮影・動画編集 レンタサイクリングの様子などをGoProで撮影し、若者向けの動画コンテンツを制作。
4	一攫千金!手打ちそば体験の旅／体験・資料収集 白山市の観光客数の現状分析をもとに、白山市の地域活性化を目指す旅行プランを提案。
5	ストレス社会と自然／体験・事業者へのヒアリング 白山の自然を用いたオススメの癒しスポットを紹介したパンフレットを提案。
6	菊姫の魅力と環境への取り組み／企業へのヒアリング SDGsの中でも「水」に注目し、白山の水で作られているお酒について調査。
7	フォトアルバム制作の過程で見えてきた現地の実態／写真撮影・フォトアルバム制作 フォトアルバム制作の過程を通して気づいた、現地の問題点や矛盾点と、私たちが考える改善点を提示。



写真左：「カフェときどきバー、お宿 たけだ」へのヒアリング
写真右：ジオサイトに関する案内板を確認する学生たち

今後の課題、展望

今後は、活動エリアを限定し、まちの実態をより深く丁寧に把握した上で、地元の事業者の皆さんと連携しながら質の高い観光商品造成を目指したい。